

[2026 年 5 月 15 日]

## 第 33 回鹿島美術財団 財団賞・優秀賞を決定

公益財団法人鹿島美術財団（理事長：鹿島公子）は、第 33 回「鹿島美術財団 財団賞・優秀賞」の受賞者を決定しました。

「鹿島美術財団 財団賞」は、美術研究の一層の振興を目的として 1994 年に創設され、以後毎年、助成者の研究成果をまとめた論文（同財団刊行『鹿島美術研究』に掲載）の中から特に優れたものを選考の上、贈呈されます。第 28 回からは表彰制度を拡充し、「優秀賞」を新設しました。このような、優れた美術研究に対して贈られる賞は国内に数少ないことから、「國華賞」（朝日新聞社関連）と並び、美術研究者の大きな関心が寄せられています。

このたび、2025 年刊行の『鹿島美術研究』（年報第 42 号別冊）に掲載され、所定の要件を満たした論文の中から、6 名の選考委員が審査を行い、「財団賞」、「優秀賞」の各賞を選定しました。受賞者には、賞状と副賞（財団賞：200 万円、優秀賞：100 万円）が本年 5 月 14 日（木）の授賞式にて授与されました。

鹿島美術財団は、美術の振興をはかり、もって我が国の文化の向上、発展に寄与することを目的に 1982 年に設立されました。全国の若手・中堅の美術研究者を主な対象に、美術に関する調査研究助成、出版や国際交流の援助、ならびに美術講演会開催などの普及、振興活動を行なっています。その活動実績は、これまでに約 3,080 件、総額約 26 億 6,000 万円にのぼります。

### 【財団賞 受賞者】

《日本・東洋美術部門》

橋本 遼太（はしもと りょうた）

（武蔵野美術大学非常勤講師）

研究主題：祥啓様式の継承の実態と祥啓面系の成立背景

—伝記関連資料の再検討と近代の顕彰運動を中心に—

《西洋美術部門》

瀧 良介（たき りょうすけ）

（国立西洋美術館任期付研究員）

研究主題：フィリップ＝ジャック・ド・ルーテルブール作《蛇に襲われる男のいる風景》

—プレロマン主義の風景画における古典主義の受容と変容—

【優秀賞 受賞者】

《日本・東洋美術部門》

金沢 文緒（かなざわ ふみお）

（岩手大学教育学部教授）

研究主題：ロダンのデッサン複製展覧会（兜屋画堂、1919-1920 年）再考  
—野島康三旧蔵資料（岩手大学所蔵）の検討を通じて—

《西洋美術部門》

中西 麻澄（なかにし ますみ）

（東京藝術大学非常勤講師）

研究主題：《マルクス=アウレリウス帝騎馬像》研究